

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：株式会社 マスネットワーク	所在地：長野県松本市中条 1-14
評価実施期間：平成 29 年 6 月 1 日～平成 29 年 9 月 20 日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050192 060861 060773 050231	

2 福祉サービス事業者情報（平成 29 年 8 月現在）

事業所名：特別養護老人ホーム笑みの里 (施設名)	種別：介護老人福祉施設
代表者氏名： 理事長 安田 正義 (管理者氏名) 施設長 中島 俊郎	定員（利用人数）：特別養護老人ホーム 80 名 併設 短期入所生活介護 20 名
設置主体：社会福祉法人 綿半野原積善会 経営主体：社会福祉法人 綿半野原積善会	開設（指定）年月日： 平成 27 年 3 月 16 日
所在地：〒395-0003 長野県飯田市上郷別府 2230-8	
電話番号：0265-48-6640	FAX 番号：0265-48-6643
ホームページアドレス： http://www.wn-sekizenkai.or.jp	
職員数	常勤職員： 65 名 非常勤職員 23 名
専門職員	(専門職の名称) 名 看護職 6 名
	生活相談員 2 名 管理栄養士 1 名
	介護支援専門員 1 名 介護員 65 名
施設・設備 の概要	(居室数) 100 部屋(完全個室) (設備等) リフト付き個室 8 か所
	ギャラリー 喫茶 図書室 家族室 特浴 1 か所 全館調湿機 生ごみ処理機

3 理念・基本方針

理念	あなたらしく暮らせるところ、あなたと共に創ります。
基本方針	1、あなたの生活を支えるケアを行います 2、あなたに寄り添い、生活を支援します。 3、安定した経営を行います。 4、地域に開かれた施設運営を行います。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

入居されている方が、ここを自分たちの住まいと思い、これまでの暮らしの継続をしていただけるように、プライバシーが確保された全室個室の環境と、個々の生活習慣を尊重した 24 時間シート活用した個別ケアを行っています。 10 人の入居者が暮らすユニットには、玄関からリビング、浴室、トイレと暮らしを感じていただけるようなプライベートスペースとなっており、固定化された職員が日々のケアを行うので馴染みの関係性を築くことができます。またユニットから外に出ると、生き生きとした毎日を過ごせるように趣味の教室やギャラリー、売店、喫茶、理美容室、図書室などを利用して頂けます。そして笑みの里は、施設らしさを出来るだけ排除して、いろいろな面で暮らしの場を感じていただけるように取り組んでおります。
--

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1. <利用者に寄り添った個別ケア>

理念に基づき「あなたの生活を支えるケアを行います」「あなたに寄り添い、生活を支援します」という基本的考え方が明示されており、「笑みの里十カ条」とともに職員の行動規範となっている。介護サービスの手順書も利用者の尊重の姿勢がみられる。アセスメントは24時間シートを使用し、1日の生活を追って入居者の心身の状況、ADL、睡眠、食事、排泄、生活習慣、暮らしの意向、できること、支援が必要なことなどを把握し、介護計画が立てられ一人ひとりに応じたケアが行われている。日々の記録も、24時間シートに沿って連動して記入されており、職員間で統一した個別の支援ができています。

2. <職員の質の向上に向けた体制の確立>

綿半野原積善会の理念の下、笑みの里が職員に求める基本姿勢に沿った人材育成の教育・研修が策定されている。全職員は、笑みの里ノートを常に携帯し、理念に対しての標準化を心掛けている。OJTシート及び個人目標評価シートを活用し、職員一人ひとりに求められる目標を設定し、基本研修や目標に合わせた研修計画が策定され全職員のレベルアップに努めている。実施された研修は評価・分析を行い、サービスの実践の場で活かされている。「安心してあなたのままの生活が続けられるケアを目指す」その思いに応えられる職員育成の体制の確立を図っている。

3. <事業所と地域のつながり>

住宅地に建設する施設として、計画の段階から地域住民への説明会を重視して取り組んできた。建物は全体に低く抑え周りになじむように設計し、地域住民が敷地内を通行できるなど配慮がされている。基本的な考え方として「地域に開かれた施設運営を行います」があり、開設当初から、ギャラリー・地域交流ホール・喫茶ラウンジを活かして地域住民との交流をはかっている。ギャラリーでは地域の小中学生や団体の展示、住民も利用できる喫茶室、パソコン教室や趣味の会の開催、職員の講師派遣など、積極的に行っている。ボランティアの訪問等も年間1,000名を越しており、地域のお祭りや文化祭への入居者の参加など双方の利点を活かした関係作りができています。

4. <楽しく美味しく食べられる食事の提供>

事業計画に、“入居者の食事意欲の維持・向上につながる食事の提供”をあげ、24節季に添った献立、各ユニットからの希望献立、入居者の前で調理の実演、行事食、今年度から取り入れた郷土食など、食事が楽しみになるよう多彩な内容を取り入れている。ごはん、お粥、汁物は、ユニットで3食作られており、副食の常食・ソフト食も、入居者の状況や希望にあわせて提供している。また、定期的な嗜好調査を行い、給食受託業者職員と管理栄養士がユニットで食事を摂るなど、連携がとれるよう配慮している。

◇特に改善する必要があると思う点

1. <ボランティアの組織化>

開設3年目で年間1000名を超えるボランティアが活動していることは評価に値する。ボランティア受け入れにあたり、入居者に対してのプライバシーを守ること等、留意事項は伝えている。今年度の計画に「受け入れユニットの対応方法のマニュアル」の作成「ボランティアの集い」等が

揚がっている。ボランティアの数が多いだけに早急に施設全体の対応マニュアルを整備し、ボランティアを組織化することを期待したい。

2. <入居者への理念や基本方針を周知>

笑みの里の福祉サービスに対する考え方等を、年1回開催されるユニット毎の家族との懇親会で説明している。入居者に対しても、表現方法を変えるなど解り易い周知方法を工夫し、さらに安心感や信頼を高める取り組みを期待したい。

3. <介護機器、設備、備品等の定期点検>

建物や付帯設備については定期点検を行っており、介護機器等も不具合に対しては迅速に対応している。安全管理については日頃から重点的に行っているが、今後、日常的な管理・点検と合わせて、介護機器、設備、備品の定期点検計画を立てられ実施されることが望ましい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目(別添1)

内容評価項目(別添2)

8 利用者調査の結果

聞き取り方式の場合(別添3-2)

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント(別添4)

平成29年10月12日 記載

事業評価項目の着眼点については、法人の理念・基本方針からサービスの具体的内容まで、多岐にわたって具体的なチェック項目があり、第三者評価を受審して改めて確認することが出来たことが大きな成果となりました。特に、管理者が事業を運営する上での着眼点については項目が大変多く、管理者としてやるべきことの参考となるものが数多くありました。

また、出来ていると評価をいただいた着眼点についても、それが継続できているか、徹底できているかをこれからも自分たちで評価して、常に質の高いサービスが提供できることを心掛けていきたいと思えます。

評価結果総評で改善する必要があると指摘いただいた点については、ボランティアの方が気持ちよく活動していただけるように施設全体の取り組みとして体制作りをする事と、介護機器、介護用品の定期点検を実施することは喫緊の課題として対応していきます。また、入居者の方への理念や基本方針の周知については、表現方法や周知方法をしっかり事業所内で検討して実施していきます。

これからも笑みの里の理念に基づき、入居者が安心してあなたのままの生活が続けられる質の高いケアを目指します。